

令和5年度 学校評価 評価結果

松戸市立根木内中学校

1 学校評価アンケート集計結果（令和3年度よりWEBによる実施に変更）

(1) 学校評価アンケート回答数

生徒アンケート回答数 187 (78.2%) 教職員 22
 保護者アンケート回答数 158 (66.1%) 地域の方 12

(2) 項目別アンケート結果（評価平均）

【評価】 4…そう思う 3…ややそう思う 2…あまり思わない 1…そう思わない
 ※ 上段（R5） 中段（R4） 下段（R3）

	評価項目	生徒	保護者	地域	教職員
1	生徒は、学校生活を楽しんでいる	3.47	3.04	3.42	3.23
		3.50	3.17	4.00	3.12
		3.49	3.20	3.57	3.10
2	生徒と教師のコミュニケーションがとれている	3.24	3.02	3.55	3.27
		3.28	3.18	3.57	3.04
		3.21	3.11	3.71	3.05
3	学校は、生徒の安心・安全を考えている	3.43	3.13	3.83	3.45
		3.41	3.36	4.00	3.35
		3.39	3.26	3.88	3.65
4	授業時数の確保・朝読書は、効果を上げている	3.12	2.75	3.50	2.91
		3.11	2.99	3.75	2.92
		3.08	2.93	3.60	3.05
5	学校は、生徒の授業評価を基にわかりやすい授業に努め、意欲的に取り組む授業づくりをしている。	3.53	2.93	3.58	3.23
		3.47	3.02	3.50	3.15
		3.50	2.97	3.60	3.15
6	生徒は、マイ☆スタなど家庭学習が積極的にできている (家庭学習の時間が増えた)	3.27	2.56	3.58	2.68
		3.19	2.72	3.67	2.77
		3.31	2.78	3.75	2.60
7	教科の特性に応じた「知識・技能」の習得	3.36	2.58	3.56	3.09
		3.35	2.73	3.75	3.12
		3.32	2.63	3.60	2.95
8	学校は、進路指導（上級学校や職業調査等のキャリア教育）が充実している	3.15	2.73	3.50	2.68
		3.25	2.87	3.83	2.96
		2.93	2.71	3.67	2.50
9	学校は、生徒間のいじめや暴力について適切な指導をしている	3.27	2.97	3.50	3.23
		3.36	3.05	3.43	3.19
		3.33	2.99	3.75	3.15
10	「思考力・判断力・表現力」の育成	3.32	2.63	3.42	3.14
		3.28	2.79	3.83	3.19
		3.16	2.69	3.60	3.00

11	「自分から課題を見つけ、目当てを持って学習に取り組む力」がついている	3.10	2.49	3.45	2.82
		3.10	2.57	3.60	2.96
		3.02	2.61	4.00	2.75
12	生徒は、基本的な生活習慣や、「できる根木中生」(挨拶・時間・整理整頓)が身につけている。	3.29	2.70	3.67	2.73
		3.28	2.77	3.43	2.81
		3.24	2.75	3.50	2.65
13	生徒は、善悪の判断をおこない、行動することができる	3.40	3.22	3.78	2.91
		3.44	3.42	3.60	2.96
		3.46	3.41	3.80	3.15
14	生徒は、行事や委員会・係活動などに積極的に参加している	3.48	3.13	3.70	3.09
		3.42	3.20	3.75	3.19
		3.35	3.20	3.75	3.35
15	生徒の自己肯定感が育っている (H30より設定)	2.88	3.04	3.33	2.77
		2.95	3.05	3.40	2.92
		2.74	3.01	3.40	2.70
16	学校は、給食のガイドラインが守られ、安心な給食がおこなわれている (R2に楽しい給食から変更)	3.65	3.42	3.67	3.55
		3.68	3.55	4.00	3.58
		3.68	3.39	3.83	3.90
17	学校の部活動は充実している	3.36	2.99	3.42	2.77
		3.39	3.04	3.29	2.69
		3.41	2.96	3.20	2.75
18	生徒会活動は、生徒の主体的活動が工夫されている	3.28	3.03	3.64	2.82
		3.23	3.01	4.00	2.85
		3.28	2.99	3.80	2.85
19	学校は、便りやHPを通じて適切な情報公開や開かれた環境作りをしている	3.46	3.20	3.92	3.50
		3.35	3.14	4.00	3.38
		3.36	3.12	3.88	3.25
20	学校は、地域の方々と力を合わせ、学校づくりを進めている	3.24	3.14	3.58	3.36
		3.16	3.19	4.00	3.19
		3.19	3.08	3.75	3.25
21	生徒は、生活の様々な場面で、自分の考えをしっかりと持ち、わかりやすく伝えるように気をつけている (R1より設定 市の施策 言語活用科の項目)	3.37	2.96	3.82	3.00
		3.31	3.08	4.00	3.00
		3.25	2.97	3.80	2.90
22	学校は、ICT環境を整備し、利便性や授業の質の向上のために有効活用している (R3より新設)	3.36	2.85	3.55	3.23
		3.33	3.07	3.67	3.38
		3.26	2.97	4.00	3.60
23	生徒は、一人一台タブレットを正しく有効に活用することができる (R3より新設)	3.61	2.70	3.27	2.95
		3.49	2.91	3.40	2.88
		3.52	2.98	4.00	3.10

2 学校評価 評価結果（まとめ）

(1) 学校運営に関して 【評価項目 1、2、3、16、19、20】

すべての評価項目において、「おおむね良好」と評価できる評価3点を上回り、学校運営全般は引き続き良好な状況であると判断できる。

- ア 【項目1 学校の楽しさ】については、概ね「学校生活満足度」は高いと判断できる。今後も、新しい教育課題に取り組むための時間の確保に向け、行事等の精選を推進しながら、日常の学校生活を充実したものとできるような学校運営を継続していく。
- イ 【項目2 生徒と教師の関係】については、生徒と教師が良好な関係にあると評価できる。今後も引き続き、学年担任制の導入の検討を進めるとともに、「すべての教職員が積極的な生徒指導を行う」という方針から、多くの職員が一人一人の生徒と関わるようにしていく。
- ウ 【項目3 安心・安全】、【項目16 安心な給食】については、ガイドラインに沿った感染症対策や、施設管理も含めた安心・安全な学校づくりに対する取り組みが評価されたものと捉えられる。今後も、最も優先されるべき事項として、学校全体で継続して取り組んでいく。
- エ 【項目19 開かれた学校】、【項目20 地域参画】については、教育活動の公開、保護者委員会やおやじの会による学校支援、生徒の地域行事へのボランティア参加等、コロナ禍以前とは異なる形で実施してきた。今後も、持続可能な地域連携の新しい形をつくっていくために、ICTの積極的な活用など、試行錯誤を繰り返しながら、これからの時代を見据えた「開かれた学校づくり」を目指していく。

(2) 学習指導に関して 【評価項目 4、5、6、7、10、11、12】

今年度の学習指導・学習成果に関する評価項目は、昨年度とほぼ同程度であるものの、保護者の評価は軒並み「おおむね良好」と評価できる評価3点を下回っている。新学習指導要領に対応した授業の質の向上、生徒の学習意欲の喚起、生徒の学習状況に関する保護者との情報共有及び協力体制の構築等が課題であるといえる。

- ア 【項目4 教育課程・朝読書】については、新学習指導要領の趣旨である「自主的、自発的な学習活動や読書活動の充実」に向けて、教育課程の見直しを進め、行事等の精選による授業時数の確保を進めるとともに、読書活動の進め方を検討していく。
- イ 【項目5 授業】については、生徒の評価が高く、授業については概ね前向きに取り組んでいるものと考えられる。今年度も1、2年生の英語 T.T.授業、全学年の数学 T.T.授業などにより、特に進度に遅れのある生徒をサポートし、「深い学びの実現」のために教材研究をし、ICTなどを活用した授業づくりに努めた。今後も実効性のある研修体制を構築し、生徒が充実感をもって主体的に取り組むことができる授業づくりを推進する。

ウ 【項目6 家庭学習】については、生徒の評価と保護者・教職員の評価の差が大きく後者は2.7を下回った。家庭学習「マイ☆スタ」は、保護者の方々による点検活動「スタ★サポ」の支えにより、生徒にとって毎日行うものとして定着している。今後は、「学力の向上につながる主体的な家庭学習」へとつなげていくために、「マイ☆スタ」の方法や内容を再検討し、自発的な家庭学習の習慣化につながるよう、保護者と協力しながら取り組んでいく。

エ 【項目7 知識・技能の習得】【項目10 思考力・判断力・表現力の育成】【項目11 自分から課題を見つけ、目当てを持って学習に取り組む力】については、新学習指導要領が掲げる大きな目標である。生徒は全て3.0を上回っている一方で、保護者は全て2.7を下回っている。「わかった」「できた」という達成感や手ごたえを大切に、生徒に自信をつけることに加え、それぞれの習熟度に応じて、より発展的な課題に挑戦することで、自分の学習状況を振り返り、粘り強く取り組む姿勢を身につけさせたい。来年度も「学習の質を高める」、「学習量を増やす」、「学習を継続させる」という3つの指導を継続していく。保護者も生徒一人一人が目先の結果だけにとらわれず、生徒が自ら目標を設定し、継続して学び続けることの大切さを、教職員と共に指導していただくようお願いしたい。

(3) 生徒指導に関して 【評価項目9、12、13、15】

生徒の規範意識に関する項目の評価が非常に高く、落ち着いた学習・生活環境が維持できていると判断できる。一方で、あいさつや整理整頓等、基本的な生活習慣を身につけることの大切さを生徒に実感させることや、生徒の自己肯定感が低いことを認識し、全員が大切な存在であるという実感を持てるような声掛けを継続していく必要がある。

ア 【項目9 いじめへの対応】については、学校の指導や対応については一定の評価が得られた結果となった。「いじめ」に対する対応については、日常の観察や教育相談を基本とし、定期的実施する「いじめアンケート」の結果を細かな指導につなげ、早期解決を図ることで、安心・安全な学校環境を維持することが大切である。保護者の理解と協力を得ながら、迅速かつ丁寧に状況を把握や改善に向けた指導等に、学校全体で組織的に取り組む。

イ 【項目12 基本的な生活習慣や「できる根木中生」(挨拶・時間・整理整頓)】については、生徒の評価と保護者・教職員の評価に大きな差が生じている。基本的な生活習慣等について、場に応じた適切な行動ができる「大人」への成長に向けて、自分を客観的に見つめ、自分を律することができるよう、継続して指導していく。

ウ 【項目13 善悪の判断】【項目15 自己肯定感】については、善悪の判断については生徒、保護者とも高く評価されており、全体としてはルールやマナーを守り、落ち着いた集団生活は維持できていると判断できる。一方で、自己肯定感については、生徒の評価が保護者よりも低い結果となっており、大人が考えている以上に生徒の自己肯定感が低くなっている現状を理解し、安心して学び、自己有用感を実感できる環境づくりに努める。

(4) 特別活動に関して 【評価項目 8、14、17、18】

今年度は、行事の精選や地域移行を見据えた部活動運営等を行ってきた中で、生徒にとって概ね充実した学校生活を維持できているものと判断できる。一方、進路指導やキャリア教育の機会が不足していると考えられるので、行事等の更なる再編成を行い、将来を見据えた進路指導やキャリア教育を行う時間を確保する必要がある。

- ア 【項目 8 進路指導】については、保護者・教職員の評価が低く、課題の残る結果となった。進路指導やキャリア教育へのニーズが高く、より充実した指導が求められている。特別活動や総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しを行い、これまで以上に進路指導や将来を見据えた資質・能力の育成に重点を置いた指導を実施する。
- イ 【項目 14 行事・委員会活動】については、今年度の学校行事が生徒にとって充実したものとなっていたものと考えられる。新しい教育課題に取り組むためには行事の精選は必要不可欠であり、今後も継続して行う。委員会活動は、日常的な活動を継続できるよう、教育課程の見直しを含め、委員会活動の時間の確保を進める。なお、ボランティア活動については、地域主体の活動への参加を促すなど、自発的な参加意識の高揚を図っていく。
- ウ 【項目 17 部活動】については、生徒にとって充実感の感じられるものとなっていると判断できる。一方で、生徒数の減少とそれに伴う職員数の減少、部活動以外のクラブチーム等に所属する生徒の増加により、今後も部員の確保や顧問の配置が難しい状況も想定されるため、地域移行の動向を踏まえながら、今後も部活動の在り方を見直す必要がある。
- エ 【項目 18 生徒会活動】については、学級、学年をまたいで活動機会や内容は限定的であり、生徒の主体的な活動としては十分な状況に至らなかった。今後は、小さな学校規模を生かした生徒会活動を実施できるよう、委員会や学級、学年の活動について、生徒の主体的な活動とするための時間と機会を確保したい。

(5) ICT の活用に関して 【評価項目 22、23】

今年度も、昨年度に引き続き、毎日の授業配信や学校と家庭の連絡手段としてのアプリの活用等、ICT の活用等を積極的に行ってきた。今後も、生徒が正しく有効に ICT を活用できるよう、授業等での積極的な活用を進めていく。

- ア 【項目 22 学校の ICT 環境の整備と有効活用】については、保護者の評価が低下した。学校の ICT 化の社会的ニーズが高まっている結果と捉え、弊害等を正しく把握し、より効率的に教育活動を行うために、環境整備の実施と有効活用に向けた研修に取り組む。
- イ 【項目 23 生徒の ICT 活用状況】については、生徒の評価と保護者・教職員の評価に大きな差が生じている。ICT をより正しく有効に活用できるよう、意図的に活用する機会を増やしていく。また、使用方法や情報モラル等についての指導力の向上に向け、職員研修を継続して行うとともに、家庭での指導について、保護者にもご協力いただきたい。

3 成果と課題（学校評価のまとめ）

学校評価の結果から、今年度、本校の学校教育活動の成果と課題は以下のようにまとめられる。

(1) 成果（生徒・保護者の評価の平均が 3.2 点以上の項目）

- ア 生徒は、学校を楽しんでいる。
- イ 生徒の安心・安全が守られている。
- ウ 生徒は善悪の判断をおこない、行動できている。
- エ 生徒は行事や委員会・係活動に積極的に参加している。
- オ 学校ではガイドラインが守られ、安心な給食がおこなわれている。
- カ 学校は、便りや HP を通じて適切な情報公開や開かれた環境づくりをしている。

(2) 課題（生徒が 3.0 未満または保護者が 2.8 点未満の項目）

- ア 授業時数・朝読書の時間の確保（生徒 3.1 保護者 2.8）
- イ マイ☆スタ等、家庭学習への積極的な取り組み（生徒 3.3 保護者 2.6）
- ウ 教科の特性に応じた「知識・技能」の習得（生徒 3.4 保護者 2.6）
- エ 進路指導（キャリア教育）の充実（生徒 3.2 保護者 2.7）
- オ 「思考力・判断力・表現力」の育成（生徒 3.3 保護者 2.6）
- カ 「自ら課題を見つけ、目当てを持って学習に取り組む力」の育成（生徒 3.1 保護者 2.5）
- キ 「基本的な生活習慣」の定着（生徒 3.3 保護者 2.7）
- ク 「自己肯定感」の育成（生徒 2.9 保護者 3.0）
- ケ 一人一台タブレットの適切な活用（生徒 3.6 保護者 2.7）

(3) 来年度に向けて

学校評価の結果より、学校全体では、規範意識が高く、行事等の活動に積極的に参加しながら、楽しく安全に学校生活を過ごしている生徒が多く、落ち着いた状況にあるといえる。

「学力」に関しては、新学習指導要領が目指す資質・能力「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性の涵養」を育むことができるよう、授業改善と授業力向上に継続して取り組む。これまでの「基礎基本」の定着は継続し、「わかった」「できた」という達成感を味わわせること、さらに学んだことを「使いこなす」力を身につけさせるようにする。また、家庭学習については、より効果のある「マイ☆スタ」を推進するために、ICT の活用を含め、提出方法や学習内容を再検討する。生徒が学び方を学び、生涯学習につながる自発的な学習意欲の喚起につながるような取り組みへと改善していきたい。

「基本的な生活習慣」については、「できる根木中生」のスローガンに、生徒が自らを律し、適切な行動ができる大人へと成長するよう、保護者の協力を得ながら継続して指導する。

「自己肯定感」については、中学生の本分である「学習」をしっかりと支援し、自信につなげたい。行事・生徒会活動、部活動においては、他者との関わりを通して自己有用感や達成感、挑戦する意欲を持てるよう働きかけていく。

今年度も、「根木内おやじの会」、「保護者委員会」をはじめ、地域・保護者の多くの方々のご協力・ご支援に支えられ学校運営をおこなうことができました。励ましのお言葉や温かい声援をいただきましたこと心より感謝申し上げます。評価、ご意見を参考に、これからも根木内・小金原地域の方々に愛され、誇りをもてる学校を作り上げてまいりたいと思います。今後よろしくお願いたします。